

熊本大学附属図書館報

東光原

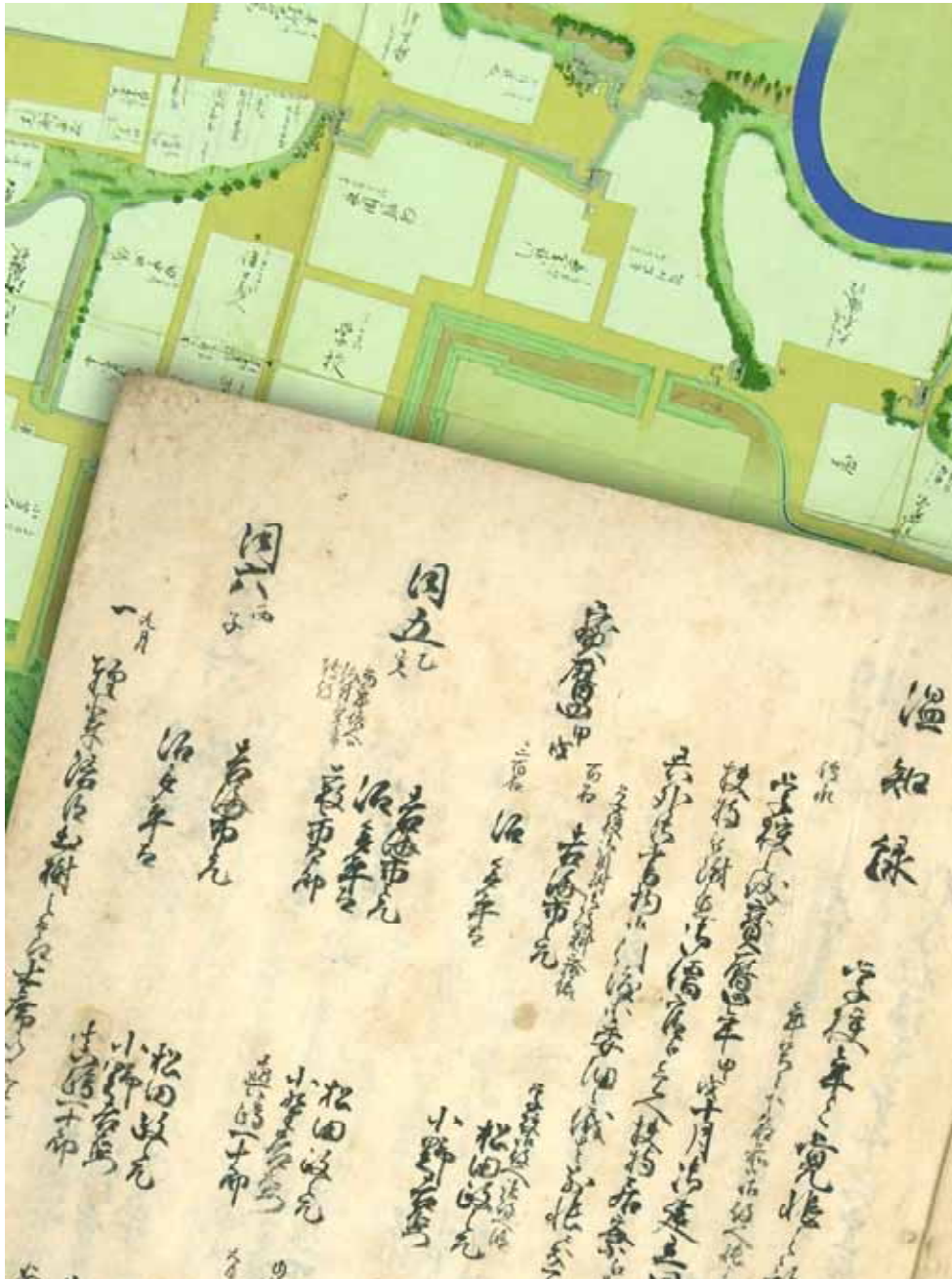
49

Kumamoto University Library Bulletin

November 2007

ISSN 0917-7604

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>



論 文 展 覧 会

学術リポジトリへのお誘い

時習館100年の運営あれこれ
「沖縄風俗絵巻」の探索

論文くださいっ!!

あなたの論文を全世界へ……………後世へ伝えます

by 熊本大学【学術リポジトリ】

◆ 熊本大学【学術リポジトリ】とは？

【学術リポジトリ】は、熊本大学の教育・研究活動から生み出された学術成果を収集し、デジタル形式で公開・保存しているものです。平成18年3月に試験公開し、5月から正式運用を開始しました。19年5月からは、リポジトリに登録されたものがエルゼビア社の学術情報検索エンジン Scopus 及び Scirus から検索可能となっており、Scopus で検索後【学術リポジトリ】にヒットした場合は、「KUMADAI IR」と書かれた別のタブの下に検索結果が表示されます。また、日本国内の大学等の機関リポジトリに収録されているデータを一括検索できる、国立情報学研究所の機関リポジトリ・ポータル Junii + (試験公開版)からも検索可能です。Google 等の一般的な検索エンジンでは、検索結果を上位にランキングされています。



【学術リポジトリ】運用の詳細は、『東光原第46号(2006.11)特集“学術リポジトリって何だ？”』をご覧ください。

→ Scopus 世界最大級の引用文献データベース

<http://www.scopus.com/>

→ Scirus 科学技術専用の Web 検索エンジン

<http://www.scirus.com/>

→ 機関リポジトリポータル Junii+

<http://juniplus.csc.nii.ac.jp/>



■ Scopus 画面による検索結果例<タブ>

The screenshot shows the Scopus search interface. At the top, there are navigation buttons for Search, Sources, My Alerts, My List, and My Profile. A search bar is present with a 'Go' button. Below the search bar, there are tabs for 'Scopus: 196', 'Web (21)', 'Patents (136)', and 'Kumadai IR (16)'. The 'Kumadai IR' tab is circled in red. Below the tabs, there is a search query field and buttons for 'Save', 'Save as Alert', and 'RSS'. Callouts point to the 'Scopus: 196' tab, the 'Web (21)' tab, the 'Patents (136)' tab, and the 'Kumadai IR (16)' tab.

注：Scopus 及び「Kumadai IR」のタブ表示は、学内限定です。

JuNii+の機関名一覧



◆ あなたの研究成果を募集しています!!

各種検索エンジン等で可視性も優れている【学術リポジトリ】ですが、残念なことにまだまだ学内での知名度も低く、登録コンテンツ数が増加しません。

学術リポジトリを活用することで、大学・研究者双方にメリットがあります。

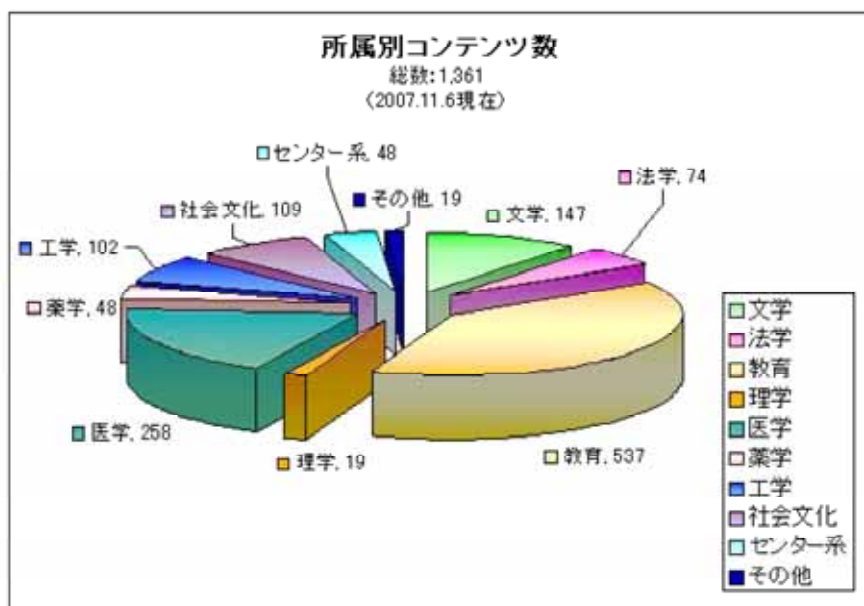
■ 研究者のメリット

新たな研究成果発信ルート／論文の被引用率アップ*／研究成果のショーウィンドウ**

- * 無料でオンライン公開された論文の被引用率は、そうでない論文の5.6倍との調査報告があります（物理学分野）。
- ** 学内外に対し研究への認知と理解の向上を期待できます。また、経済的理由などにより電子ジャーナルを購読できない機関や民間の研究者へも、自らの研究成果を届けることができます。

■ 大学のメリット

説明責任の遂行／学術情報の一元的管理／大学のブランド力の向上



登録コンテンツ数の状況です。

この中には、11月より登録を開始した五高の「龍南会雑誌」も含まれています。

「龍南会雑誌」は、今後も登録作業を進めていきます。

◆【学術リポジトリ】へ登録していただくために

- 学術雑誌掲載論文
- 学内紀要・広報等に掲載された論文・記事
- 各種報告書類（科学研究費報告書，COE報告書等）
- 会議・学会等での発表資料
- 教育関係資料
- 学位論文

などが、【学術リポジトリ】へ登録されています。

■ 著作権について

商業出版社刊行分は、出版社側に著作権が委譲されていることがほとんどです。

この場合は出版社側の許諾が得られたものだけをリポジトリにて公開します。

許諾情報の確認は図書館で行います。研究者のみなさまへは、共著者の方々がいらっしゃる場合、リポジトリ掲載の連絡をお願いしています。

■ 著作権に関わる重要なお願い!!

専門学術誌等に発表された論文の多くは、著作権上の都合により“著者自筆原稿ファイル”の登録が認められています。掲載された誌面そのもの、もしくは電子ジャーナルからダウンロードしたもの（出版社のロゴが入ったPDFや別刷等）は、リポジトリへの掲載を認めません。←少数ですが、認めている出版社もあります。

“著者自筆原稿ファイル”は、ピアレビューを完了し、学術的内容の確定した段階のもので、論文投稿の最終原稿を指しています。リポジトリへ登録いただくために、この最終段階である“著者自筆原稿ファイル”のデータ保存をお願いします。

◆ 登録までの流れ

- ① 学内研究者のみなさまからコンテンツのご提供
 - ▽ 雑誌掲載論文であれば掲載雑誌名・巻号などをお知らせ下さい。
- ② 図書館で登録作業
 - ▽ 著作権確認／索引語（メタデータ）付与
- ③ 世界へ発信 & 保存

◆ 学位論文を執筆中の方へ

学位論文は、執筆者に著作権があります。論文提出時に、図書館宛の“博士論文申請書”と一緒に提出してください。特許等の申請がある場合は、その旨を備考欄へお書きください。申請終了後、リポジトリへ登録します。

卒業された方も、学位論文をリポジトリへ登録いただけます。

下記の“問い合わせ先”までご連絡ください。

◆ 登録方法は2通りあります!!

まずは、図書課電子情報担当へご連絡ください。

- A. 直接フォームに入力し、オンラインで登録する

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/reposit/toukou.html>

- B. メール・学内便にて図書館へ送付する。

denjo@lib.kumamoto-u.ac.jp

登録をお待ちしています。

【参考】 <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/reposit/> ←学術リポジトリのご紹介



問い合わせ先
附属図書館 電子情報担当
Tel : 096-342-2224 (内線) 2224
Fax : 096-342-2210
E-Mail: denjo@lib.kumamoto-u.ac.jp



第2回永青文庫セミナー

時習館100年の運営あれこれ

川口 恭子

1. 「温知録」について

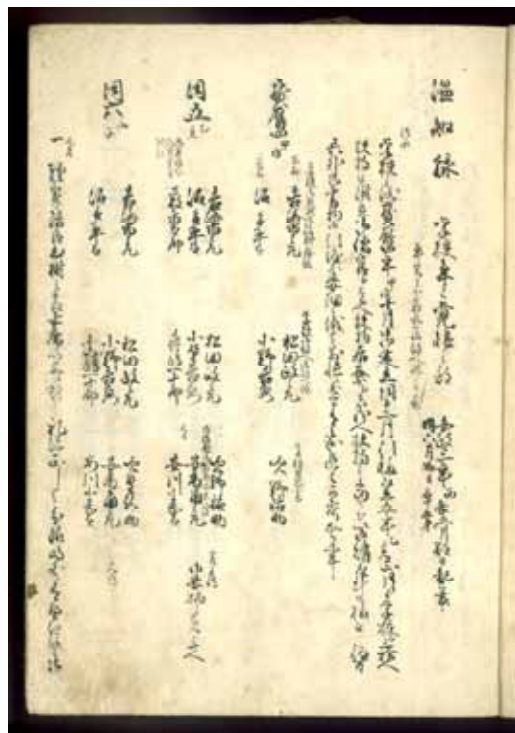
宝暦の改革の一環として、藩校「時習館」が創設されたのはよく知られるところである。

藩の12部局のひとつである学校方では、その毎日の記録を残し、「年々覚帳」と名づけた1年のまとめの帳面を作成した。

宝暦4年(1754)から安政3年(1856)までの、約100年の記録を、安政3年(1856)5月から6月に掛けて整理したものが「温知録」である。体裁は26.0×19.2cm、墨付96丁の和綴の本である。

内容は、まず年号の下に職員の名前が書かれている。編纂に当たって、「役人帳」から書き抜いた当時の事務方職員名簿である。次いで、色々の記事が記録されている。

いまそれらの中から興味深いものをいくつか紹介しよう。



温知録

2. 学校職員組織

- 1) 学校目附 文武の師範および諸生徒を監督する役目で、はじめは2人であったが、宝暦5年からは3人になった。
- 2) 士役 宝暦13年(1763)から1人任命。諸役人の中心となって会計出納などを監督する。はじめは軽輩の切米取であるが、後は御擬作^{あてがい}100石となる。
- 3) 横目 宝暦13年から3人。学校目附のもとにあつて監察の補助をする。
- 4) 役人 はじめ2人。翌年から3人。天保8年(1837)から4人。会計を担当し、居寮生の賄いなどを取り扱う。普請・書物購入・文武芸の諸道具一切の面倒を見る。
- 5) 物書 はじめ1人。宝暦5年3人、後、寛政2年(1790)には8人、安政3年には10人。書類を扱い、図書の種類・管理・出納など。
- 6) 手伝 宝暦5年3人。天保5年には20人。諸用事の手伝、茶・煙草の世話など。
- 7) 荒仕子 人数不明、天保5年9人。居寮生の飯炊き、諸雑用。

3. 学校経費

- 1) 宝暦4年12月 30人扶持(54石)
- 2) 宝暦13年10月 30人扶持と銀100枚
- 3) 安永3年8月 1割減
- 4) 享和3年2月 勝手方難渋に付き居寮差止め

5) 文化7年5月 居寮復活

4. 建物増築

- 1) 講堂 宝暦9年9月工事始まり、翌年6月竣工。天保2年30畳分増。
- 2) 習書齋 寛政元年増築。文政5年建増。 新習書齋 文政12年場所替え。
- 3) 文庫 文政4年新文庫建造。天保7年補修。
- 4) 句読齋 天保6年増築。
- 5) 居寮 天保8年増築
- 6) 天保12年現在 畳数965枚半 障子数299枚と35間分

5. 正月13日開講式の模様

- 1) 宝暦10年、学校20畳の間で儒官の講釈初めがあり、池辺平太郎が「大学」を講読、後、上の方に総教、両榭師範・士席以上は20畳の間、儒官は奥の間、その他も所定の所で御酒頂戴。
- 2) 宝暦11年からは、講堂で同上。
- 3) 毎年、説教が終わり、講堂・句読・習書に精を出した者は褒められた。後、音楽・管弦があった。出席者・御酒頂戴は同上。

6. 藩主の講堂御入り

- 1) 宝暦10年9月15日 南門より入御、講堂階下にて下乗。三洲志津摩・堀平太左衛門など出迎え、御居間に着座、南面せられる。儒官・両榭師範お目見え。
御帰りにも、学校役人以下、所定の所でお目見え。南門より還御。
- 2) 寛政4年12月 御供の御小姓頭初め、総御供の者へ、朝5時半（午前9時）から夕7時（午後4時）頃まで、茶瓶・火鉢などを出す。
当日は勿論、前日から総出で、朝6時（午前6時）から暮まで掃除を行うので、入御の節々、炭2俵・薪2束格別に渡される。

7. 居寮生について

- 1) 資格 成績優秀な者
- 2) 人数 宝暦13年 7～8人
安永6年 19人
享和3年 勝手向き難渋に付き差止め、自炊の居寮は許可される。
文化7年 6人、同8年10人、同9年旧複。
天保2年 人数制限なし、9年25人。
- 3) 外出・門限 宝暦13年 夜5時（午後8時）迄。東門より出入り。
寛政4年 夜4時（午後10時）迄。 出入の際は門札自身持参のこと。
- 4) 書物拝見 宝暦12年 何時でも拝見出来る。
寛政4年 1人前10部宛。
天保6年 冊数制限なし。
- 5) 賄い 朝夕、夜食。

天保7年現在 1ケ年経費見積 1貫249匁4分7厘

天保8年 朝夕1汁1菜に菜1種増、昼・晩にお平。肴は月に6度。

肴の日 毎月 朔・4・9・15・19・24日

8. 文庫・書物

- 1) 蔵書冊数 宝暦13年 凡そ12,000巻程
天保10年 12,733部 32,230冊
御前御預御蔵書 271部 5,049冊
- 2) 蔵書目録作成・点検・曝書
宝暦13年 秋山儀右衛門・藪茂次郎その他・句読師4人、居寮生などが毎日整理し、目録を作成した。
寛政3年 村本頭次が御蔵本目録仕立する。
文政4年 村本亮助が受込を命じられる。
- 3) 書物の補修
天明5年 蔵書修理に張付師1人。
天保4年 欠本、破損書物の写継に、講堂生2人。
- 4) 書物購入費
寛政3年 1ケ年 銀子2貫目宛
文化3年 儉約に付き、一般書買上見合わせ。
- 5) 学生への書物購入斡旋
天保7年 講堂生・句読生に対し、10ケ年賦で購入斡旋。 1人1部。
弘化3年 年賦希望書目について、雑書は不可。

かわぐちやすこ 客員教授

貴重資料展を開催

旧制第五高等学校開校120周年を記念して、10月10日(水)～13日(土)に貴重資料展及び永青文庫セミナー「近代への階梯－熊本教育史の一断面－」を中央館と放送大学熊本学習センターで開催しました。

公開講演会

- 藩校の時代 吉村豊雄文学部教授
- 時習館100年の運営あれこれ 川口恭子客員教授
- 「沖縄風俗絵巻」の世界 小野友道名誉教授



「沖縄風俗絵巻」の探索

浦田博臣

はじめに

「沖縄風俗絵巻」は熊本大学の前身である旧制第五高等学校時代からの蔵書で、昭和63年に「発見」されて後、広く世にその存在を知られるようになった。池宮正治琉球大学教授によって明治初期～中期の作と推定され、往時の沖縄の風俗を知ることのできる貴重な史料である。

ただ長年月を経て表装の傷みが激しく、ところどころセロテープで補修してあり、とても一般公開には耐えられないため、今年度早々修復を行うことになった。

夏の終わり頃には無事に修復も完了し、さっそく毎年秋に開催している熊本大学附属図書館貴重資料展に出品して多くの方に観ていただくことにした。

しかし、そもそも「沖縄風俗絵巻」をいつ入手

したのかなど、史料としての基本的なことがらに不明な点が多かったので、判る範囲で構わないから、とにかく早急な調査が必要であるということになった。

この調査にあたっては、貴重資料展の講師をお願いした小野友道名誉教授や川口恭子客員教授の助言をいただいた。

調査の経緯と、その結果判明した事項を以下に記しておくことにする。

1. 和漢書五十音順分類目録

図書館としては、受け入れた日付が不明であることがまず問題なので、そこから調査を開始した。

かつて図書館に受け入れた図書はすべて「図書原簿」に図書館員の手で順に書き込まれていた。

はじめに「沖縄風俗絵巻」巻頭に印字されている“蔵書番号”No.1102を「図書原簿」であたってみようとしたが、どういうわけか該当する「図書原簿」を見つけることができなかった（この「図書原簿」は後日発見することとなった）。

そこで「図書原簿」自体の調査は後回しにして、その書棚に置かれていた五十音順の冊子体図書目録（背に「和漢書五十音順分類目録(I) 五高図書課」とある）を開いて、[オ]のページを探したところ「沖縄風俗画（絵巻）」を発見することができた。

ところが残念なことに「図書目録」なので出版年月の項目はあっても、それ以外にいつ受け入れたかというようなことは書かれていない。

仕方がないので、「図書目録」の中から「沖縄風俗絵巻」の蔵書番号に近いNo.1000～1199（明治7～36年発行分）の図書を抜き出し、それらの出版事項から「沖縄風俗絵巻」の入手時期を推定することにした。

見てみると、No.1092の「電動機発動機取扱法」



和漢書五十音順分類目録

が明治32年2月に発行されており、それより後の日付は「沖縄風俗絵巻」以前にはない。

したがって「沖縄風俗絵巻」は、明治32年2月以降に受け入れた可能性が高いことになる。

ただ、そうすると池宮先生の推定された「明治初年から半ばにかけて」という制作年代との間にすこしばかりズレが生じる。

2. 南嶋探検

次に、「沖縄風俗絵巻」を入手したいきさつがわかれば日付を絞り込めるのではないかと思い、文献資料をあたることにした。

小野先生が「いれずみ物語 6」（大塚薬報 No.617）で参考文献として上げられている笹森儀助の「南嶋探検」は、日清戦争（明治27～28年）直前の明治26年に笹森が「約5ヶ月間にわたり踏査した南島の実態を、漢文訓読体によって、克明に記した記録」である。

第五高等学校との関連でいうと、「南嶋探検」の成立に時の文部大臣で熊本出身の井上毅が深く関わっていたらしい。

参照してみると、なかに女性の手の甲に描かれた入れ墨の図がある（東洋文庫411「南嶋探検 1琉球漫遊記」181～182ページ）。これは「沖縄風俗絵巻」に描かれたものとは異なる文様の入れ墨である。

無理をすれば明治26年を「半ば」と言えないこともなさそうなので、「沖縄風俗絵巻」の招来について笹森が言及もしくは関与していないかと思ったが、そのような記事は見つけられなかった。

3. 龍南会雑誌

「龍南会雑誌」は旧制第五高等学校の校友会誌で、明治24年から昭和19年まで全254号が発刊された、わが国における校友会誌として旧制第一高等学校の「校友会雑誌」に次ぐ歴史と発刊号数を誇るものである。

最近、熊本近代文学研究会の手によって、全号の目次が修正加筆のうえ検索可能な形で提供されたので、図書館ホームページに上げる準備をしていたところを利用させてもらうことにした。

まず試しに“琉球”で検索したところ、思いがけず第75～77号（明治32～33年）に掲載された記事がヒットした。

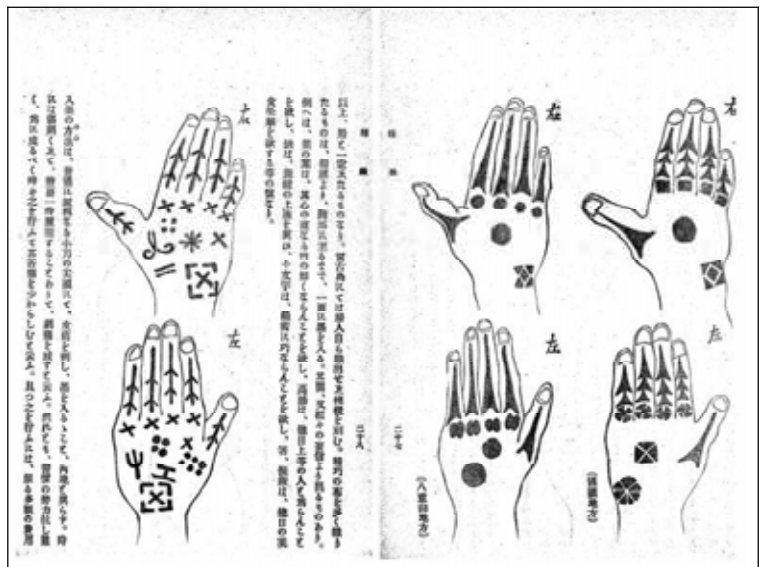
当時第五高等学校の教授であった武藤虎太の講演を筆記したという『琉球』。

日清戦争後、日露戦争（明治37～38年）を控えた明治32年7月から8月にかけて、武藤が19日間の沖縄出張旅行を行った成果を述べたものである。

「沖縄風俗絵巻」の招来については言及されていなかったが、代わりに興味深いものを発見した。それは「南嶋探検」と同じく女性の手の甲に描かれた入れ墨の図である（第77号27～28ページ）。

ここに「沖縄風俗絵巻」の文様と、「南嶋探検」の文様がふたつ並べて掲げられている。まるで武藤の「琉球」が「南嶋探検」と「沖縄風俗絵巻」を繋いでいるようにもみえる。

どうやら武藤は、明治27年に発行された「南嶋探検」に目を通しており、「沖縄風俗絵巻」の招来にも何らかの関わりを持っていたらしい。



龍南会雑誌

4. 復命書

書面で提出する出張報告のことを「復命書」という。

小野先生の調査依頼を受けた五高記念館友の会の東孝治事務局長によって、武藤の沖縄出張の「復命書」が発見された。

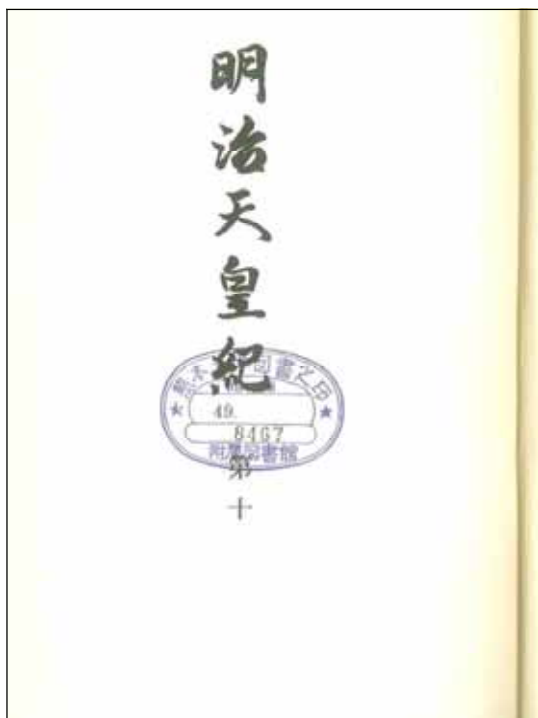
内容は簡単なもので、

明治32年7月17日に熊本を発ち鹿児島を經由して26日に那覇着、県庁を訪ねて調査方針について相談したうえ、県庁所蔵の史料12点42冊を借り出して旅館に持ち帰った。

27日は首里の中学校と師範学校を訪ね聞き取り調査を行った後、史料6点6冊を借りた。

28日は首里の小学校を訪ねた後、「中城御殿」で「書画宝物書籍ヲ展陳」されている内、主な史料12点20冊その他（「数十部」とある）を閲覧した。

29日以降は首里と那覇の旧跡を訪ねつつほとんどの時間を旅館での史料調査に費やした。さらに県庁などから史料7点34冊を借り、また聞き取り調査を行った。



明治天皇紀 第十

帰りには鹿児島で史料（「薩藩日記」）を閲覧し8月11日に帰校した、とある。

「中城御殿」で「展陳」されていた「書画」の内に「沖縄風俗絵巻」も含まれていて、何らかの事情でそれを武藤が持ってきた可能性もあると思われるが、証拠はない。

5. 明治天皇紀

「明治天皇紀」は明治天皇の誕生から崩御まで61年間（嘉永5年～明治45年）に及ぶ日々の動静を詳細に記述したものである。

我々が「沖縄風俗絵巻」を初めて見たときに気づいたのは、表装の仕方がほかの巻物と異なり、掛け軸のように布地が絵の左右天地を囲んだ形で貼られていたことである（原状のままでは保存に適さないの、修復する際に通常の形態に変更することになった）。

幅30cm長さ20m超の細長い巻物をわざわざ掛け軸のように表装するという事は、その大きさに見合った場所を用意する必要があるの、美術館などへの展示か、またはある程度位の高い人物を対象とする陳列・展示を目的としたのではないかと（これはまた、そもそも表装がどこで行われたかという疑問にも関連しているが）。

ちょうどその頃、明治天皇が明治35年に九州巡行を行ったと書かれているものを読んだ。そこで、関連性は低いと思いながらも「明治天皇紀」のページを開いてみることにした。

すると明治35年11月13日に、「是れより先、文部大臣、車駕西幸の次を以て特に第五高等学校に臨幸あらせられんことを内請す、是の日供奉の彰仁親王を遣はして之れを視しめたまふ（317ページ）」とある。ひょっとするとこの時に展示したのかもしれない。

6. 五高五十年史

「五高五十年史」は昭和13年に開校50周年を記念して出版された、明治21年から昭和12年までの第五高等学校の歴史を叙述したものである。編纂

は高森良人教授。

小松宮彰仁親王が第五高等学校を訪問したとすると、それは重要な出来事として「五高五十年史」に記載されていないといけない。

目次を見ると「第四篇第一章補遺一 各宮殿下の台臨並に奉送迎」として章立てされている。

「小松宮殿下」は明治30年11月4日にも第五高等学校を訪ねていた。したがって明治35年の訪問は二度目ということになる。

この時、「教室内に陳列せる図書・標本・機械及び生徒の成績品を御巡覧(448ページ)」されたというが、「沖縄風俗絵巻」についての言及はない。あるいは彰仁親王以外の皇族が見たのではないか。

そこで、念のために他の殿下の項を確認していくと、あった。

「皇太子殿下(後の大正天皇)」が明治33年10月21日から23日にかけて「御微行」の際、他の資料と共に「沖縄風俗取調書一冊、沖縄風俗絵画一卷(以上、武藤教授が、校命に依り実地に就いて取調べたもの)」を「台覧に供し奉った」という。

ちなみにこの時、「沖縄風俗絵巻」以外はすべて東京へ持ち帰ったらしい(451ページ)。

「沖縄風俗絵巻」を残した理由は不明だが、この記事から、すでにこの時点で「沖縄風俗絵巻」が巻物の形態であったこと、武藤が現地で調査した成果と認識されていることはわかった。

7. 図書原簿

こうしている間に、探していた「図書原簿^A」が見つかった。蔵書番号から確かめると「沖縄風俗画」を明治33年8月1日に受け入れたと記載されている。しかし、何となくおかしい。

No.1~1164が同じ日付で受け入れてあって、[摘要]欄に「現在」と書き込まれている。どうやらこれは“転記”されたものらしい。

もう一度探し直して、その元帳というべき「図

16	集古漫事帖	丹波川	1	31.8	3.300
17	二國筆海鳥書	丹波川	1	22.5	10.000
18	傳子光	丹波川	1	22.5	1.000
19	古蘭録	丹波川	1	22.10	1.100
20	集古十種	丹波川	1	22.11	20.000
踊目録八部 八冊 傳子光部 十冊 踊目録九部 九冊 甲子部 十一冊 踊目録十部 十冊 子光部 十二冊 樂器部 六冊 文房部 一冊 印章部 七冊 扇部 十冊 古道具部 八冊 七弦部 一冊 刀剣部 二冊 馬具部 二冊 御器部 一冊 小倉部 一冊 名産部 一冊 杖部 一冊					
21	沖縄風俗画	野田	1	33.0	9.000
22	梅園奇賞	野田	1	33.0	2.100

図書原簿^B(部分)

書原簿^B」によりやくたどり着いた。

こちらによれば、受け入れは明治32年12月、つまり武藤が出張から戻って4ヶ月後のことである。

この転記が行われた理由は、おそらく最初の「図書原簿^B」が一冊の帳簿を「第一門哲学・宗教」から「第十五門雑書(図書館管理法)」まで分類別に数ページずつ区切って作られていたためである。

バインダー方式ではないので、個々の分類ごとに割り振られたページ数を超えて記帳できないということに誰かが気づいたのだろう。ここで“通し番号”方式に切り替えている。

まとめ

このように、「沖縄風俗絵巻」が旧制第五高等学校の蔵書となった日付は(年月だが)明治32年12月と確認できた。

しかし、その“いきさつ”はいまだ定かではない。ここで一応のまとめとして、今回の調査の過程で判明したことがらに勝手な想像を付け加えてみることにする。

- ① 明治26年に笹森が「南嶋探検」を行って翌27年に刊行する。
- ② 日清戦争後、明治32年に武藤が沖縄に出張し



沖縄風俗絵巻

て資料を“収集”する。

おそらくこの時に、中城御殿で「展陳」されていた「沖縄風俗絵巻」も収集したのではないか。そう考えれば、池宮先生の推定された制作年代とのズレにも説明がつく。

③ 帰校して「復命書」を提出するとともに講演を行い、それが「龍南会雑誌」に翌年まで三号にわたって掲載される。

④ 12月に蔵書として登録される。

それでは、表装したのは一体いつのことか。

帰校から四ヶ月しか経っていないので、無理とはいえにせよ、この間に表装したとは考えにくい。収集の時点ですでに表装されていたと考えた方が自然ではないか。もちろん、登録後に表装された可能性も残されてはいる。

⑤ 明治33年10月に「沖縄風俗絵巻」を皇太子の「台覧」に供する。

ただし、以上はあくまでも限られた範囲での調査結果をもとにした“推測”にすぎない。

「沖縄風俗絵巻」についてはその作者をはじめ不明な点が極めて多い。専門家による今後の研究

に期待したい。

備考：

調査にあたって使用した資料の著者名等についてはすべて敬称を略した。

うらたひろおみ 副課長

黒髪界隈拾遺

明治末期から大正初期までの10年に満たないわずかな期間だが、赤門の前を玩具のように小さな蒸気機関車が一两だけの客車を引いて通っていた。熊本軽便鉄道。

小馬力のために上り坂では乗客が下りて皆で押したらしい。蒸気機関につきものの煤煙は、市内では随分と嫌われたようだ。

それでも最盛期には熊本市内から大津町までの路線を運行していた。

やがて大量輸送時代の訪れとともに姿を消すことになる。

日誌 (平成19年7月～10月)

- 7/1-3 CSI委託事業報告交流会及びセミナー
(東京都)
- 7/7 熊本市インターライブラリー親善スポーツ大会 (熊本学園大学)
- 7/9 工学系図書館ガイダンス
- 7/12-13 ILLシステム講習会 (国立情報学研究所)
- 7/13 学術情報セミナー (福岡市)
- 7/18 第3閲覧室・会議室無線LAN稼働
- 7/20 第4回附属図書館係長会議
- 7/28 九州地区国立大学図書館ソフトボール大会 (福岡市)
- 8/2 第2回医学系分館運営委員会
- 8/6 熊本県図書館職員研修会 (熊本県立図書館)
- 8/13-14 夏季一斉休業
- 8/20-24 中央館蔵書点検のため臨時休館
- 9/6-7 中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー (福岡市)
- 9/13 熊本県大学図書館セミナー・実務者研修会 (九州東海大学)
- 9/18 第2回附属図書館組織評価委員会
- 9/21 第5回附属図書館係長会議
- 9/26 第2回附属図書館運営委員会
- 9/27 医学系分館仕様策定委員会
- 9/28 著作権セミナー
- 10/4 「横井小楠文書」寄託
- 10/10-13 第24回貴重資料展・第2回永青文庫セミナー
- 10/12 九州地区医学図書館協議会
- 10/17 工学部ゼミ図書館ガイダンス
- 10/18-19 基礎セミナー「図書館活用法」
- 10/18-19 九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議 (福岡市)
- 10/23 第6回附属図書館係長会議
- 10/29-11/16 文献検索ガイダンス

「横井小楠文書」を寄託

10月4日(木)に、熊本が生んだ幕末の偉人として名高い横井小楠関係の史料が、曾孫にあたる横井和子大阪教育大学名誉教授から寄託されました。

明治維新や近代政治思想研究の基礎資料として、今後の研究に大いに役立てられるものと期待されています。

表紙の言葉

今回は貴重資料展でご覧いただいた「二丸之絵図」と「温知録」です。

東光原：熊本大学附属図書館報 第49号 平成19年11月刊

発行 熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
Tel. 096(342)2273 Fax. 096(342)2210
編集 浦田博臣 岩岡仁美 笠 彩子
URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>